



# 取扱説明書

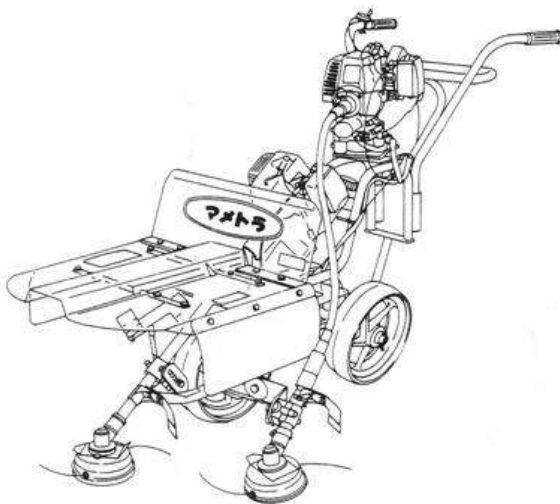


当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。お読みになった後も必ず保存してください。

機種名

**PK-25**  
**PK-35**

## 三菱畦草刈機



**三菱農機株式会社**

## はじめに

### マメトラ畦草刈機をお買い上げいただき ありがとうございます。

この取扱説明書は「マメトラ 畦草刈機 PK-25・35」の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき、最良の状態でご使用ください。

お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。

製品を貸与される場合は、この取扱説明書を添付してお渡してください。取扱説明書を紛失、汚損された場合は当社または当社の特約店に連絡してください。

なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

ご不明のことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお近くの特約店・販売店にご相談ください。


本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。


なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

#### ◆注意表示について

本取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

 **危険** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

# サービスと保証について

## ☆保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。  
お読みになった後は大切に保管してください。

## ☆アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社営業所までご連絡ください。

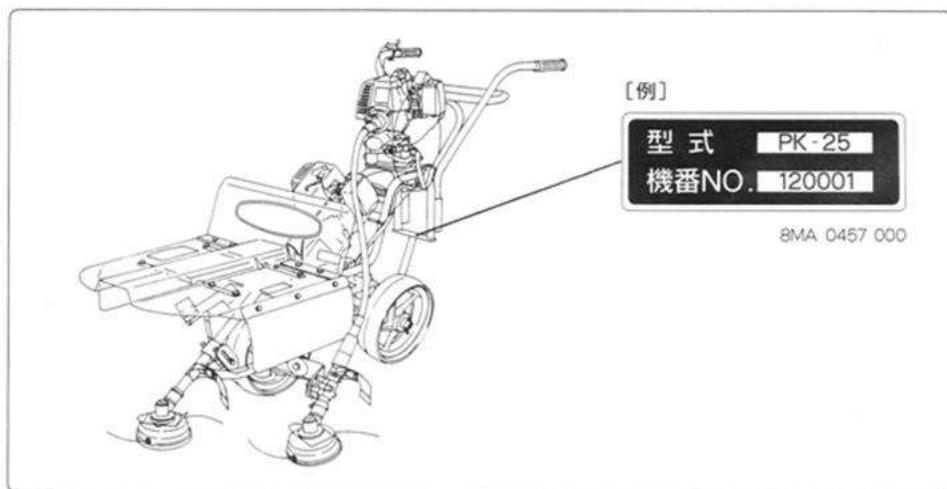
連絡していただきたい内容

- 型式名・区分
- 機体番号・エンジンの場合エンジン番号
- 故障内容（できるだけ詳しく）

## ☆補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、納期および価格についてご相談させていただきます。



## ☆取扱説明書について

本機取扱説明書を紛失・破損した場合コードNo. G86 1450 000でご注文ください。

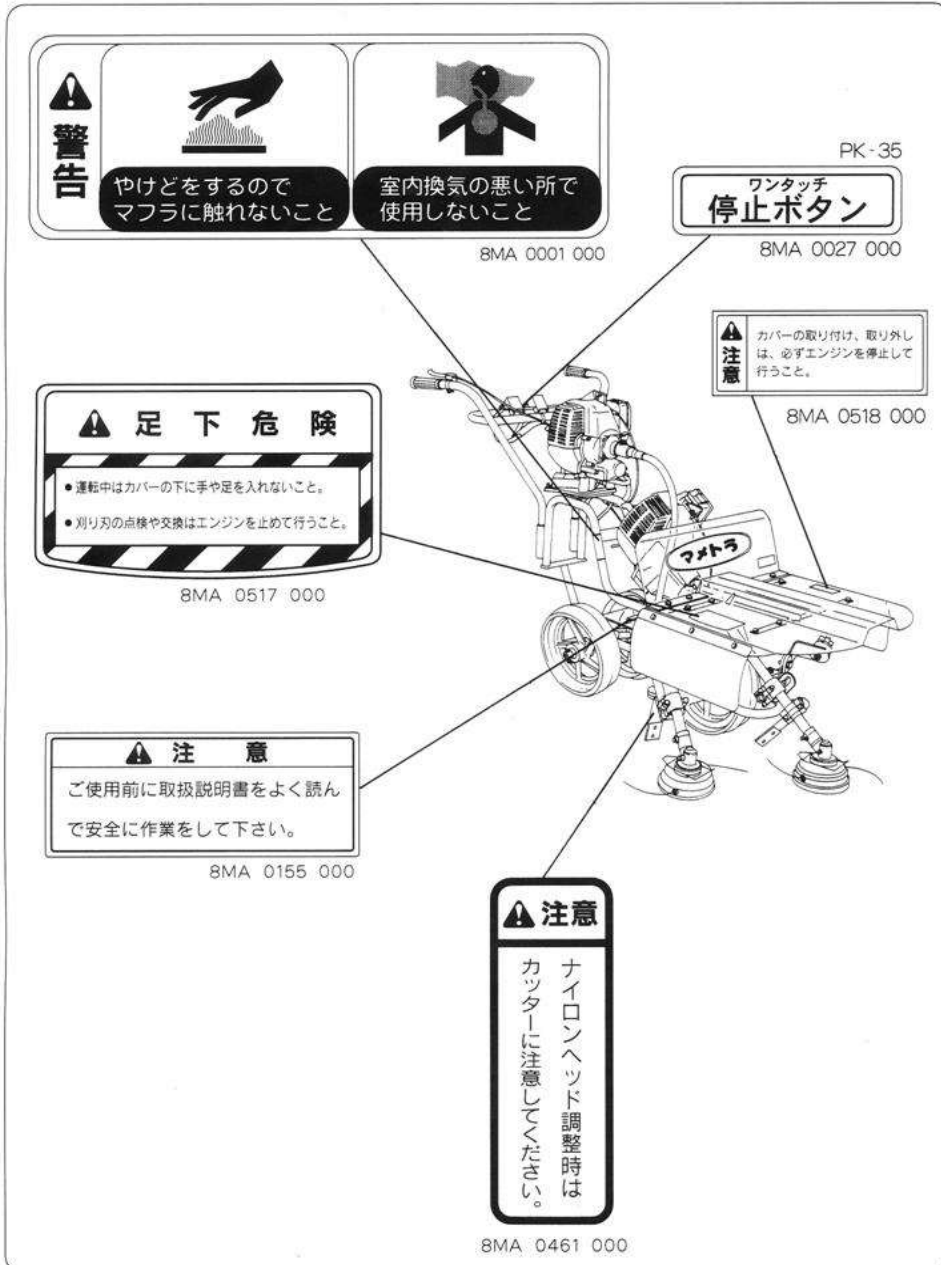
# 目次

●はじめに .....	I
●サービスと保証について .....	II
●目次 .....	1
1. 特長 .....	2
2. 安全標識貼付位置 .....	3
3. 各部の名称 .....	4
4. 安全作業のための心得 .....	5
5. 使用方法 .....	7
6. 本機の組立て .....	10
7. 運転方法 .....	17
8. 保守・点検・整備 .....	22
9. 保管の方法 .....	27
10. 故障診断 .....	28
11. 工具及び付属品 .....	31
12. 主要諸元 .....	32
●安全説明確認カード	

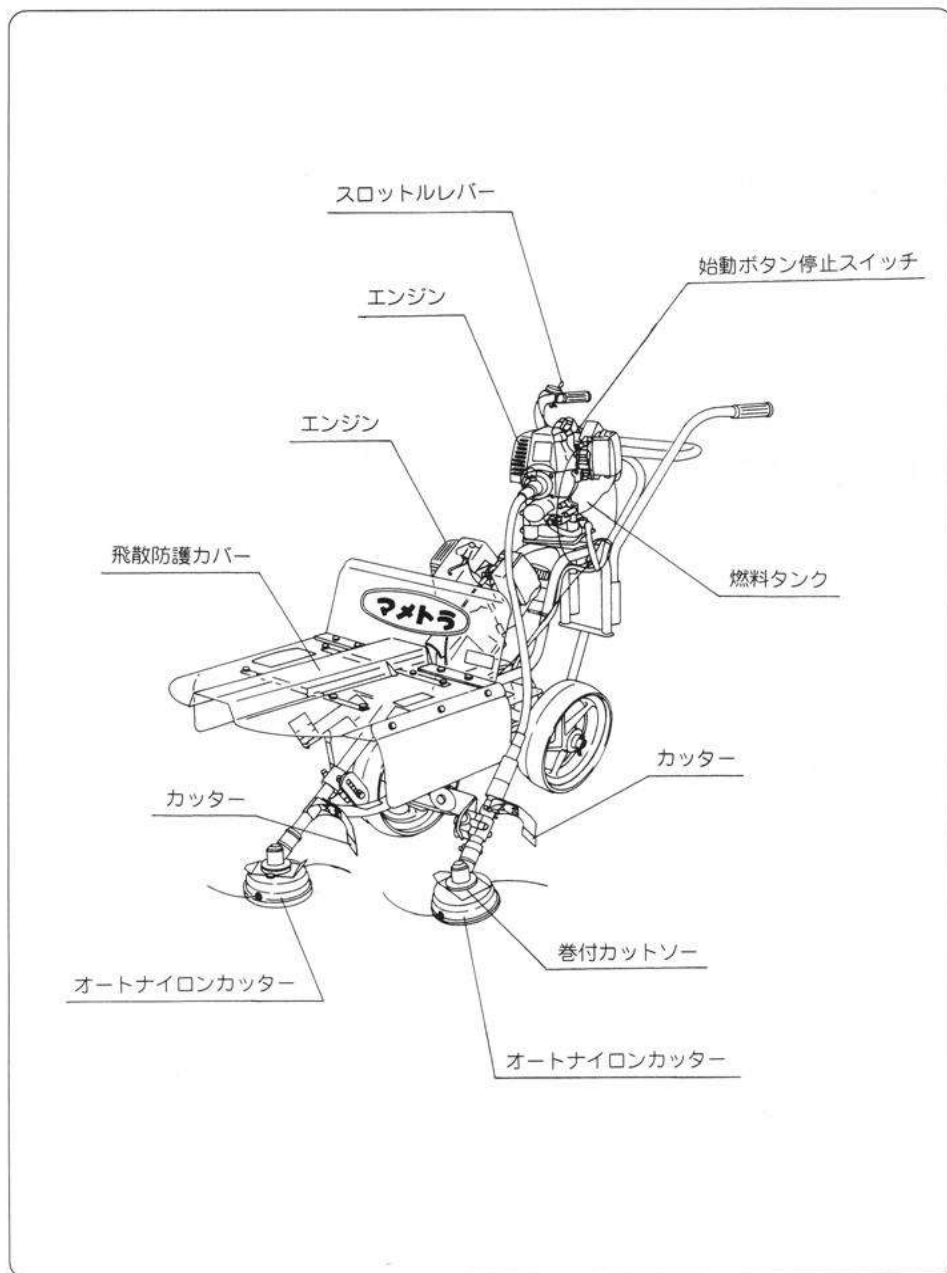
# 1 特 長

- ①台車上にエンジン付刈払機を2台搭載し、そのうちの1台を畔の水平面の刈取り用に、他の1台を畔の傾斜面の刈取り用にそれぞれ用いることができる。
- ②本機は手押し式で自由に前後に動かして刈取り作業ができる。
- ③畦の傾斜面の刈取り用刃は、取付角度を変更することができ、水平刈等広範囲の刈取り作業ができる。
- ④台車はアルミ軽合金を使用して軽量化を計ると共に車輪はV型車輪方式を採用して、狭い場所、傾斜地での直進走行性を向上している。
- ⑤草刈作業が重たい肩掛け及び、背負いの作業から解放され労力が大幅に軽減される。
- ⑥エンジン操作は1つのレバーで2台をコントロールできるようになっている。

## 2 安全標識貼付位置



### 3 各部の名称

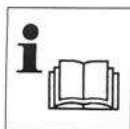


## 4 安全作業のための心得

### 4-1 警告表示について

当該製品に関する安全な使用方法、予見可能な危険の排除、誤使用による危険回避などを目的に本機及び取扱説明書に下記の表示をしております。これらの表示以外に関しても十分安全に配慮してご使用ください。

本機に使用の警告マークの意味について



- 取扱説明書を良く読んで内容を十分理解し、誤った使用で不慮の事故を起さないように注意すること。



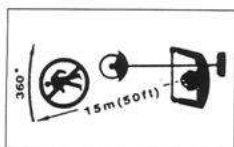
- 取扱説明書または本機に表示の危険、警告、注意マークなどに従って安全に使用してください。



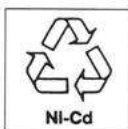
- 保安帽（ヘルメット）、保護メガネ、手袋、安全靴など防護具を着用してください。



- 切削物の飛散方向に注意してください。



- 畦刈機の作業から15m以内を危険区域とし、この中に作業者以外の人が入らないこと。  
また、数台同時に作業するときもこの距離は守ってください。



- この商品にはニカド電池を使用しています。ニカド電池のリサイクルにご協力ください。  
\*本文中のバッテリーとはニカド電池のことです。



## 4 安全作業のための心得

### 4-2 畦刈機の安全使用のために

畦刈機を安全に使用するために、次の事項は必ず守ってください。



★飛散防護カバーは必ず取り付けること。(図1)



- ★畦刈機は雑草を刈るために設計、製造されています。その他の作業などには絶対使用しないでください。
- ★長袖、長ズボン、(ダブダブしない身体に合った、袖じまり、裾じまりの良いもの)を着用し、頭部にはヘルメット(JISなどの規格に合格した保安帽など)を着用するとともに、手袋、保護メガネを付け、足元保護のためすべりにくい安全靴をはいてください。(図2)
- ★ホコリの多い場所では防塵マスクを着用してください。
- ★疲れている時、身体の調子の悪い時、飲酒をしたり薬物を服用した時は使用しないでください。
- ★子供や取扱の指導を受けていない人には使用させないでください。
- ★畦刈機を初めて使う人に使わせる場合は事前に基本的な操作方法や安全な使い方を実際にやってみせること、と同時に必ず取扱説明書を付けること。
- ★夜間及び天候の悪い時は使用しないでください。
- ★換気の悪い場所(屋内、トンネル内など)での作業はしないこと。(排気ガスは有害ですので直接吸わないでください。)(図3)
- ★警告表示マークが見えなくなったり、はがれたり、不鮮明になった場合は新しい警告表示マークと取り替えてください。



図1

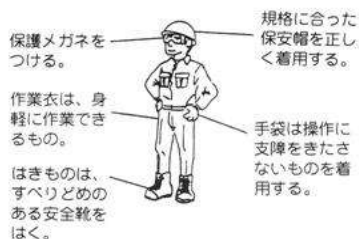


図2



図3

# 5 使用方法

## 5-1 使用の前に

### (1) 機械の点検


 <b>危険</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>★刃刃は、確実に取り付けられているか、損傷はないかを確認し、異常のないことを確認してから使用してください。</li><li>★カッタソーは消耗品です。異常のないことを必ず確認してから使用してください。損傷、摩耗等している場合は必ず交換してください。</li><li>★飛散防護カバーは必ず取り付けてください。</li><li>★燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えていることを確認し、火気のない通気の良いところで行ってください。補給中に燃料をこぼした時は、引火のおそれがありますので、十分に拭き取ってください。(図4)</li><li>★各部のゆるみがないか、グリス、燃料が入っているか、燃料漏れがないかを点検し、異常がないことを確認してから使用してください。</li><li>★2サイクルエンジンですので、燃料はガソリン25に対し2サイクル専用オイル1の割合です。混合比を間違えるとエンジンが焼付や摩耗を起こしますので注意してください。(図5)</li></ul>
--	---



図4




図5

### (2) 作業場所の点検

- ①空缶、針金、小石などの有無を確認し、ある場合は取り除いてから作業をしてください。
- ②畦刈機の作業から15m以内を危険区域とし、この中に作業員以外の人が入らないこと。  
また、数台同時に作業するときもこの距離は守ってください。



### (3) エンジンの始動

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>★エンジンを始動する時は、周囲(15m以内)に十分注意し、刃刃は地面に振れないようにしてください。</li><li>★漏れた燃料への引火防止のため、燃料を入れた場所より3m以上離れた所で、エンジンを始動すること。</li><li>★始動する時、スロットルはアイドルリングの状態にしてください。</li><li>★排気を吸わないように注意してください。</li><li>★回転を上げる場合は急激に上げず徐々に回転を上げてください。回転はむやみに上げないでください。</li></ul>
--	---

# 5 使用方法

## 5-2 作業時

### (1) 運転

 <b>危険</b>	★回転中の刈刃は大変に危険です。絶対に触れてはいけません。触れると死傷することがあります。(図6)
 <b>警告</b>	★刈刃部に草などが巻き付いた場合は必ずエンジンを停止し、刈刃の停止を確認してから草などを取り除いてください。 ★作業はゆとりをもって行ってください。 ★エンジンの回転速度をむやみに上げず、メーカーの推奨する回転速度、毎分8000回転を守ってください。 ★刈刃は必ずメーカー指定の純正品を使用してください。 ★2人以上で作業する場合は呼び子などの合図の方法をあらかじめ決めて、合図の徹底を図ってください。また、人と人の間は15mを保ってください。 ★作業中に立ち話は絶対にしないでください。話をする時はエンジンを止めてください。 ★電気ショックを受ける可能性がありますので、作業中は点火プラグキャップ部、高圧コードに触れないでください。 ★やけど防止のため、作業中はもとより、エンジン停止後もしばらくはエンジン本体、マフラー、特にテールパイプ(排気口)などに触れないでください。 ★場所を移動する時、作業を中断する時は必ずエンジンを停止し、刈刃の停止を確認してから行ってください。 ★畦刈機が故障した時は、取扱説明書の「故障診断」をご覧ください。「故障診断」で対応できない場合はお買い上げの販売店にご相談ください。

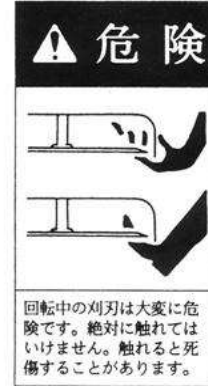


図6

### 5-3 作業後

- ①全体のチリやホコリをよく取り除いてください。特にエアークリーナー部分の付着物に注意してください。
- ②各部の締付ネジの緩みがないか、刃刃に損傷がないかを点検し、ネジの緩みがあれば締付けてください。  
刃刃の交換の際は必ず手袋を着用してください。
- ③燃料やギヤケースのグリスもれがないかを点検し、もれがある場合は修理してください。
- ④修理・調整をするときはエンジンを停止し高圧コードを点火プラグから外してください。
- ⑤部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をお使いください。

## PK-25

### 5-4 充電に関する注意



★下記の注意を守らないとバッテリーの性能や寿命の低下又は漏液、発熱、破裂の原因となります。

- ①本機のバッテリー充電にはかならず付属の充電器を使用してください。  
付属の充電器を本機のバッテリー以外の充電に使用しないでください。
- ②この充電器は一般家庭用(AC100V)電源専用です。それ以外の電源では使用しないでください。
- ③充電はかならず周辺温度10℃～40℃の範囲で行ってください。
- ④充電は危険な場所、通路、又は湿気のある場所は避けてください。
- ⑤本機及びバッテリーの保管は温度が50℃以上になる場所は避けてください。  
(夏期に於ける直射日光の当たるスチール小屋など)
- ⑥バッテリー又は充電回路をショートさせないでください。  
ショートさせると、バッテリーの異常発熱或いは損傷の原因となります。
- ⑦バッテリーは本機の使用中に外さないでください。外しますと電気回路故障の原因となります。
- ⑧バッテリーを直接電源コンセントや自動車のシガレットライターに接続しないでください。
- ⑨バッテリー取扱い上の注意
  - ・火の中に投入したり加熱しない。
  - ・ハンダ付けしない。
  - ・プラスとマイナスを針金などの金属類で接続しない。
  - ・外装チューブをはがしたり、分解改造をしない。
  - ・強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない。

## 6 本機の組立て



★エンジン単体またはクラッチケースを外しての運転は絶対にしてはならない。  
クラッチシューが外れ非常に危険です。

### 6-1 エンジンとフレキシブルライナーの接続 (図7)

- ①ロックピンを上へ引いて、ロック穴のある方を上に向けて、フレキシブルライナーをクラッチケースに完全に止まるまで差し込みます。
- ②ロックピンを放し、フレキシブルライナーを左右に回してロックピンをロック穴に入れます。このときフレキシブルシャフト先端をクラッチケース内の正方形の穴に確実に入れます。
- ③フレキシブルライナーを引っ張って抜けないことを確認します。

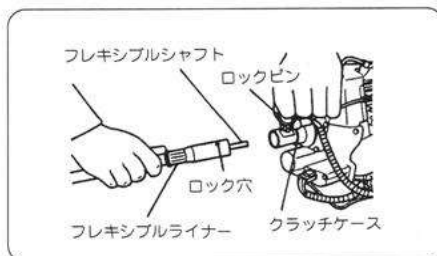


図7

### 6-2 メインパイプとフレキシブルライナーの接続 (図8)

- ①ジョイントパイプに締め付けてあるネジを取り外します。
- ②ジョイントパイプにフレキシブルライナーを凸部まで差し込みます。このときジョイントパイプを左右に回しながら入れ、フレキシブルシャフトを結合させます。
- ③先に外したジョイントパイプのネジをライナーの溝に合わせてセットし、フレキシブルライナーを左右に回して抜けないことを確認してから締め付けます。

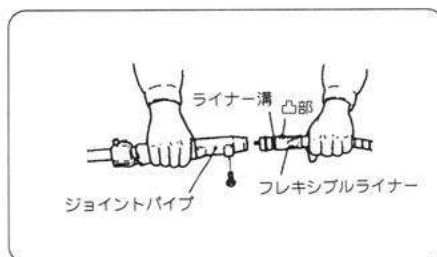


図8

### 6-3 スロットルワイヤー及びストップコードの接続

- ①スロットルワイヤーの先端をアウター受けに通し、気化器の上にあるスィベルの溝にはめこみます。(図9)
- ②スロットルワイヤーを軽く引いてスロットルワイヤーの先端をスィベルに確実にセットします。

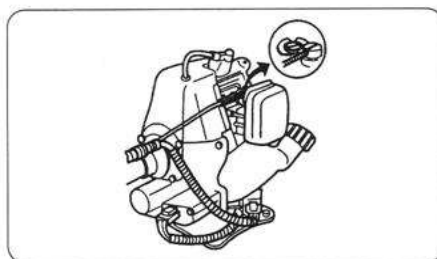


図9

- ③ストップコード先端のコネクターをエンジン側コネクターにさして接続します。(図10)

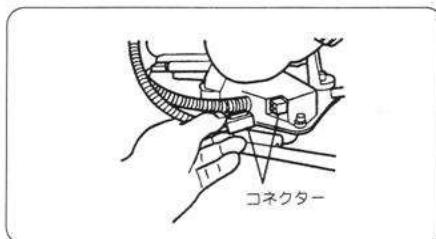


図10

#### 6-4 オートナイロンカッターの調節方法

##### 右側取付

##### ①水平判位置

メーカー表示白ベンキマークに合わせてください。(図11)

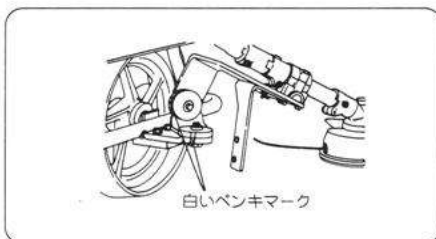


図11

##### ②畦刈位置

ボルトをゆるめて図の位置にセットしてください。傾斜角は任意に合わせてください。(図12、13)

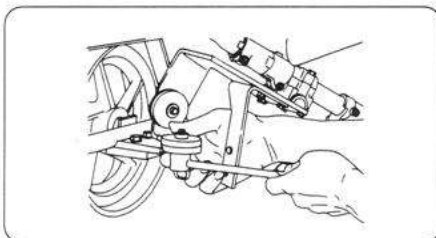


図12

傾斜角は圃場条件に合わせて調節してください。

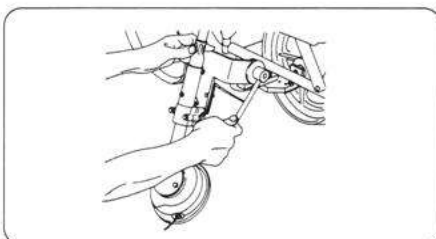


図13

## 6 本機の組立て

### 左側取付

#### ①水平位置

メーカー表示白ペンキマークに合わせてください。

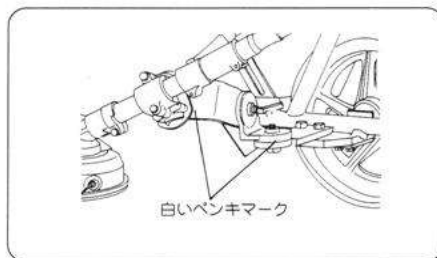


図14

#### ②傾斜地位置

ボルトをゆるめて図の位置にセットしてください。傾斜角は任意に合わせてください。

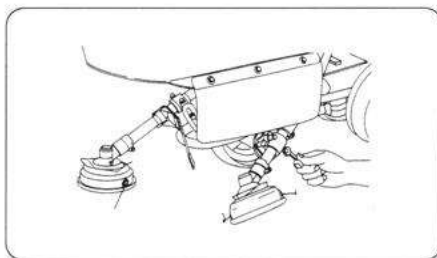


図15

### 6-5 オートナイロンカッターの畦刈機への取付

①刃受け金具とギヤケースの廻り止め穴に六角棒スパナ(1)を差し込みます。

②ナイロンカッターを半時計方向に止まるまで回して取り付けます。(図16)

(他社の畦刈機の中には右ネジの物もあります。この場合は取り付けません。)

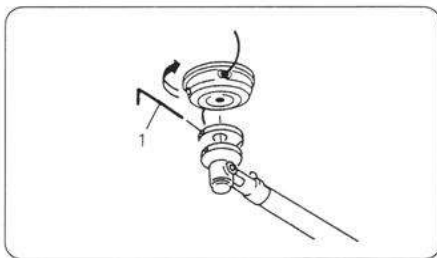


図16

## 6-6 刈り高さの調整方法

### ①直管式刈取部の高さ調整

- ボルトをゆるめて高さを調整してください。  
(図17)

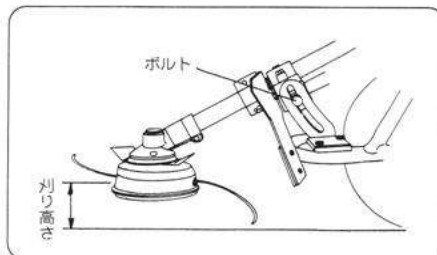


図17

## 6-7 使用方法



注意

★オートナイロンカッターの使用に際しては、刈払機取扱説明書を良くお読みいただき安全に関する注意事項を必ず守ってください。



危険

★オートナイロンカッターを使用する場合は必ず保護メガネ、すね当てを着用し、作業中の飛散物に注意してください。  
★作業範囲の中に他の人が居ないことを確認して作業してください。飛散物で他人に危害を与える事があります。

- ①作業開始前に(再使用の場合は除く)ナイロンコードのコード出口よりコード先端までの長さを約10cmに切りそろえてください。
- ②エンジン回転を上げて、作業をしてください。  
エンジン回転が低すぎると上手に刈る事が出来ませんのでエンジンの回転を上げてください。
- ③ナイロンコードが短くなると自動的に一定量のコードが繰り出されます。



## 6 本機の組立て

### 6-8 ナイロンコード出寸法の調整方法

オートナイロンカッターは、エンジンの排気量、出力の関係で、コードの出寸法が変わります。型式による標準のコード出寸法は右記の通りです。コードの出寸法がこの範囲外ですと切れ味が違います。その時は、以下の調整を行ってください。



- ★エンジン回転が低すぎるとコードが出ない時があります。
- ★コード標準出寸法の範囲以上出して使用しないでください。クラッチケースが焼き付く場合があります。

- ①「ナイロンコードの交換」を参考にナイロンコードキャップをはずし、ナイロンコードリールとリールスプリング、ディスクを取り出します。
- ②ナイロンコードボディの奥に、1、2、3の番号があります。(図18)  
この番号はディスク受けて、各々の番号は高さ異なります。この高さの違いによりバネの強さが変わり、コードが出やすくなったり、出にくくなったりします。セット1番は出やすくなり、セット3番は出にくくなります。

※ディスクの標準セットは、ナイロンコードボディのディスク受けの2番の位置ですので、ディスク2にセットしてください。(図18)

コード標準出寸法

エンジン	出寸法範囲
PK-25	135mm
PK-35	170mm

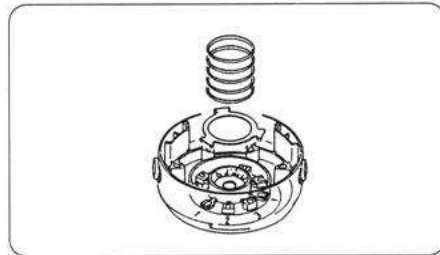


図18

## 6-9 ナイロンコードの交換

ナイロンコードを使い切った時は以下の要領にて交換してください。必ず当社指定の純正ナイロンコードを使用してください。純正品以外のコードをご使用になるとコードの出が悪かったりして正常な使い方が出来ない場合があります。



★針金、ワイヤーロープは絶対に使用しないでください。針金やワイヤーロープを使用すると人に危害を与える事がありますので絶対に使用しないでください。

- ①ナイロンコードキャップをはずし、ナイロンコードリールをはずします。お手持ちのマイナスドライバーをナイロンコードボデーの溝から出ている爪の上に咬ませ、そのままドライバーを半回転せればはずれます。(図19)



★キャップがはずれるとき、ボデーの中のバネ圧力で、キャップが飛び出すことがありますので、顔等に当たらない様にご注意ください。

- ②キャップをはずしたら、ナイロンコードボデーの中のナイロンコードリールを取り出し残っているナイロンコードを取り除きます。(図20)

- ③当社の純正ナイロンコードをコードの真ん中から約20cmずらして折り曲げます。折り曲げた部分をナイロンコードリールの仕切板の溝に引っ掛け、ナイロンコードリールのそれぞれの溝に一列に巻き込みます。(ナイロンコードリールに巻けるコードの最大長さはアカコード(φ2.7)で3.5mです。(図21,22)

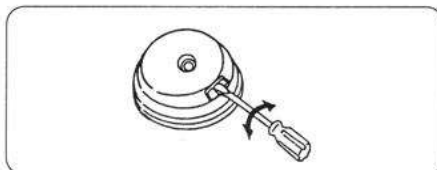


図19

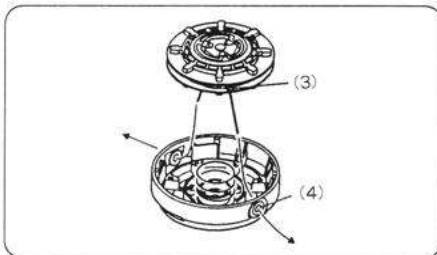


図20



図21

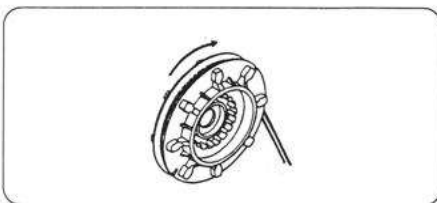


図22

## 6 本機の組立て

④ナイロンコードは上下のリール溝に一列に巻き込み、ナイロンコードの先端を約10cm残してナイロンコードリール側板のコードを引っ掛け溝(3)に止めます。(図23)

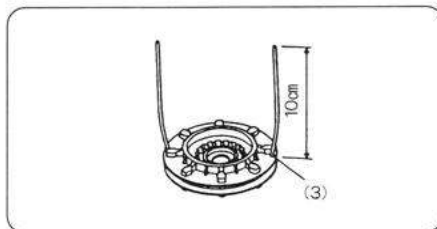


図23

⑤コードの先端をナイロンコードボデーのナイロンコートガイド(4)の穴に通し、ナイロンコードリールをナイロンボデーにセットします。セット位置はナイロンコードリール側板のコード引っ掛け部分(3)がコード出口に来る位置にします。(図20)

⑥次にナイロンコードを引っ張り、側板の引っ掛け溝よりコードをはずします。コードの出寸法はコードの出口より約10cmです。切断するか、ナイロンコードリールを回して出寸法を調整してください。(図24)

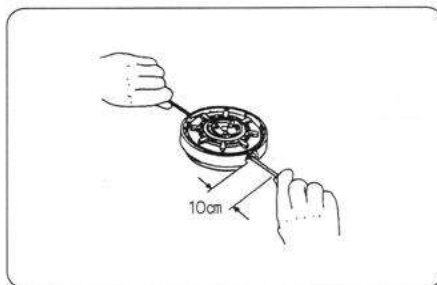


図24

この際、ナイロンコードがナイロンコードリールの下側に入り込んでいないことを確認してください。

⑦ナイロンコードキャップをナイロンコートボデーの爪穴位置に合わせてパチンと音がするまで押し込みます。(図25)

キャップの爪が完全にナイロンコートボデーにセットされたか確認してください。

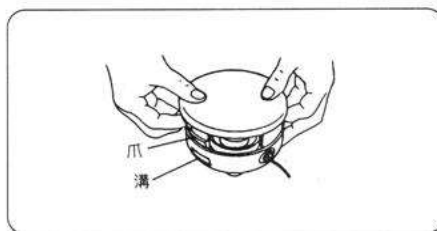


図25

⑧セットが確認されましたらナイロンコードを引っ張りコード出寸法がコード出口より約10cmのところまで切断してください。(図26)

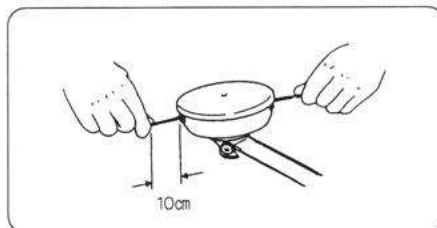


図26

## 7 運転方法

### PK-25

#### 7-1 燃料の準備

- ①燃料は潤滑油混合ガソリン25:1（ガソリン:2  
サイクル専用オイル）を使用してください。

**注意** ガソリンだけで絶対に運転しないでください。エンジンが焼き付きます。



★燃料給油中はタバコを吸ったり、その他の火気を絶対に近づけてはいけません。火災またはやけどの原因となります。（図27）

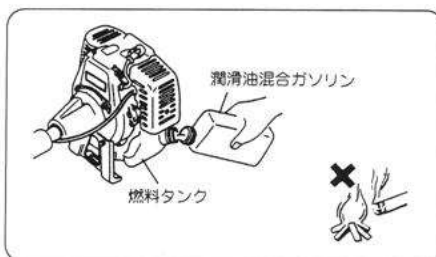


図27

- ②別容器で良く混ぜてから燃料タンクに入れてください。



★補給中に燃料をこぼした時は良く拭き取ってください。

**注意** 燃料は必要以上に混合しないで、作業に必要な量をその都度準備してください。長期間保管した混合燃料を使用しますと、故障の原因となります。

#### 7-2 始動方法

**注意** 工場出荷時には、バッテリーは満充電してありません。最初にご使用になる時は、必ずバッテリーの充電をしてください。その際は、「バッテリーの充電方法」P24に従って行ってください。



★エンジン始動と同時に刈刃が回転する場合がありますので注意してください。

- ①気化器下のプライミングポンプを数回押してください。（リターンパイプに燃料が流れてきたらプライミングポンプを押すのをやめてください）（図28）

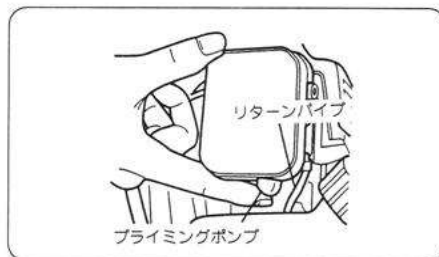


図28

- ②スロットルレバーをアイドル位置にします。  
(図29)

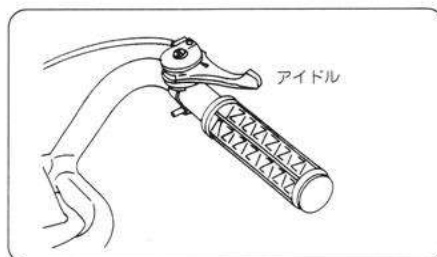


図29

- ③スタートコントロールレバーを始動位置にします。(図30)

**注意** エンジンが暖まっているときに再始動するときは、プライミングポンプは操作しないでください。



図30

- ④ストップスイッチをON(運転)の位置にしエンジンが始動する迄スタートボタンを押します。  
(図31)

**注意** スタートボタンは10秒以上連続して押さないでください。

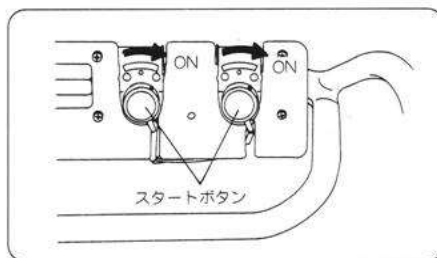


図31

- ⑤始動したらすぐ指を離し、スロットルレバーを少し開いてから、すぐアイドル位置に戻してください。これでスタートコントロールレバーが始動位置から自動的に通常の運転位置に戻ります。
- ⑥⑤の操作でも始動しない場合は、②からの操作を繰り返してください。
- ⑦始動したら使用前に低速回転で2~3分間暖機運転をしてください。(スロットルレバーをアイドル位置に戻すと、低速回転になります)

**注意** エンジンの再運転などでエンジンが暖まっている時は、スタートコントロールレバーの操作は不要です。この場合は、始動方法の④からの手順で始動してください。

### 7-3 停止方法

- ①エンジンを停止する時は、スロットルレバーを戻し低速回転になってからストップスイッチをOFF(停止)位置にしてください。(図32)

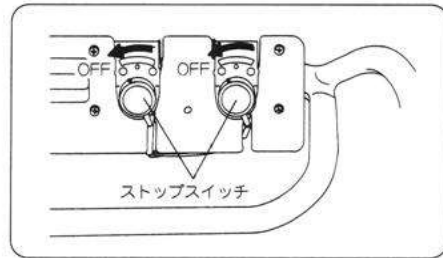


図32

### PK-35

#### 7-1 燃料の準備

- ①燃料は潤滑油混合ガソリン25:1(ガソリン:2 サイクル専用オイル)を使用してください。

**注意** ガソリンだけで絶対に運転しないでください。エンジンが焼き付きます。



**危険**

★燃料給油中はタバコを吸ったり、その他の火気を絶対に近づけてはいけません。火災またはやけどの原因となります。(図33)

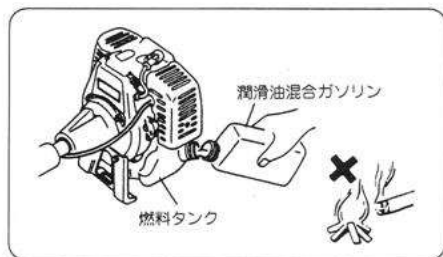


図33

- ②別容器で良く混ぜてから燃料タンクに入れてください。



**注意**

★補給中に燃料をこぼした時は良く拭き取ってください。

**注意** 燃料は必要以上に混合しないで、作業に必要な量をその都度準備してください。長期間保管した混合燃料を使用しますと、故障の原因となります。

# 7 運転方法

## 7-2 始動方法



**注意**

★エンジン始動と同時に刈刃が回転する場合がありますので注意してください。

- ①スロットルレバーをアイドル位置にします。  
(エンジンが始動しにくい時は半開位置にします)(図34)



図34

- ②チョークレバーを全開にします。(図35)

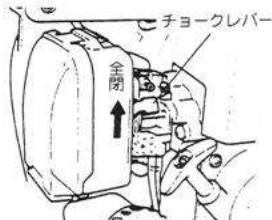


図35

- ③リコイルスターターを数回力強く引いてください。  
最後まで引ききらないでください。  
(図36)

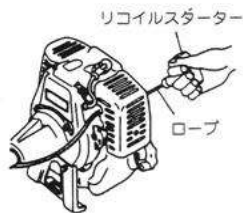


図36



**注意**

★引いた後ロープをゆっくり戻してください。

- ④初爆(ボン、ボンという爆発音がします)がありそのまま継続していたらチョークレバーを徐々に開の位置にしてください。  
⑤④の操作で2~3回爆発して停止したら、チョークレバーを開の位置にして、再度リコイルスターターを引いてエンジンを始動してください。  
⑥④の操作でも始動しない場合は、②からの操作を繰り返してください。  
⑦始動したら使用前に低速回転で2~3分間暖機運転をしてください。(スロットルレバーをアイドル位置に戻すと、低速回転になります)

### 7-3 停止方法

- ①エンジンを停止する時は、スロットルレバーを戻し低速回転になってからエンジンが止まるまでストップスイッチを押してください。  
(図37)

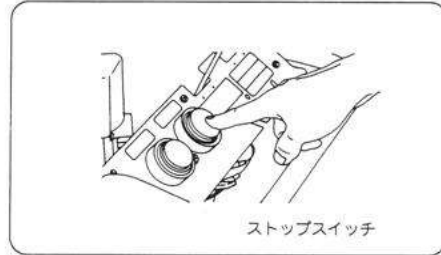


図37



## 8 保守・点検・整備

PK-25



★エンジン単体またはクラッチケースを外しての運転は絶対にしてはならない。クラッチシューが外れ非常に危険です。

### 8-1 気化器

- ①気化器の調整は、工場出荷時に済んでおりますので、なるべくさわらないでください。
- ②アイドル回転が高すぎる時(刈刃が回っている時)または低すぎる時(エンジンが停止する時)は、アイドル調整ネジで調整してください。(右回してアイドル回転が高くなり、左回して低くなります)(図38)



図38

### 8-2 点火火花の点検

- ①点火プラグを取付ネジ穴から外し、取付けネジ部以外の金属部に接触させます。



★シリンダー内の残留ガスに引火する場合がありますので、点火プラグの取付けネジ部には接触させないでください。

- ②スタートボタンを1~2秒押します。



★付近のガソリンを良く拭き取り、引火の恐れがないことを確認してから行うこと。  
★スターターボタンを押す時点火プラグの金属部に手を触れますと高電圧のため感電しますので注意してください。

正常な場合は点火火花が出ます。

### 8-3 点火プラグ(図39)

- ①点火プラグは指定のものを使用してください。(仕様参照)
- ②最良の運転状態では点火プラグの電極が茶褐色に乾燥しています。火花間隔は0.6mmです。
- ③汚損した場合は掃除し、ガソリンで洗い、乾かしてから使用してください。

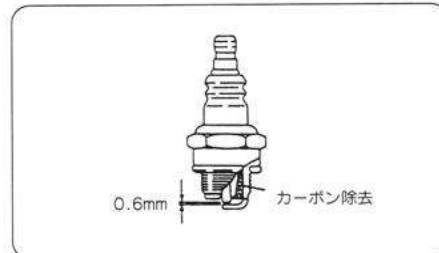


図39

#### 8-4 エアークリーナー (図40)

- ①クリーナースポンジが汚れ、目づまり状態になると出力低下や始動困難になります。クリーナースポンジは時々掃除し、汚れを落として目詰まりを防いでください。
- ②クリーナースポンジを掃除する時は、ガソリンで洗ってかたくしぼり乾燥させてから取り付けてください。

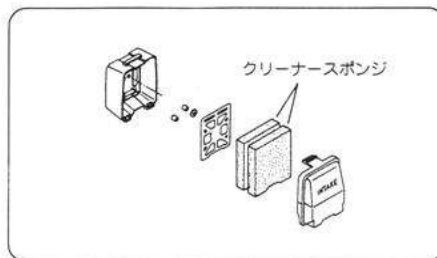


図40

#### 8-5 燃料フィルター (図41)

- ③燃料フィルターがつまるとガソリンが上がらずエンジンの回転不調の原因となります。時々点検してください。
- ④汚れている時は、針金などで燃料給油口から引き出してガソリンで良く洗ってください。(汚れのひどい時は交換してください)

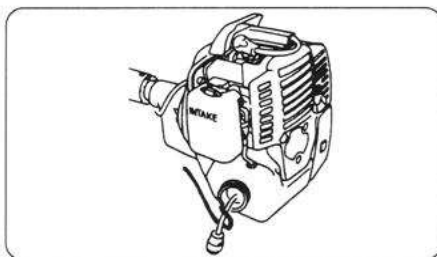


図41

#### 8-6 マフラー (図42)

- ①長時間運転しますと、シリンダーの排気孔、マフラーの入り口内部、出口にカーボンが付着し出力低下の原因になります。時々掃除してください。但し、シリンダー排気孔を掃除する時はピストンやシリンダーに傷を付けないように、又クランクケース内にカーボンが入らないように特に注意してください。

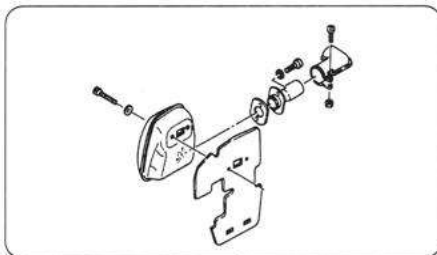


図42

#### 8-7 ギヤケース (図43)

- ①50時間使用毎にグリスを補充してください。
- ②ギヤケースヘッド部の側面にあるネジを外し、そのネジ穴からグリスを注入してください。

**注意** ネジを元の位置に取り付ける際は、ゴミや土をよく取り除いてください。

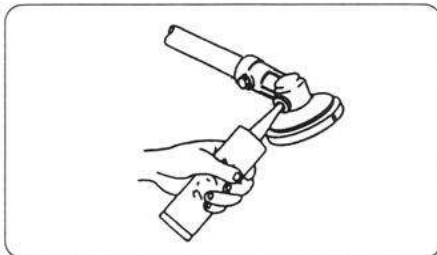


図43

## 8 保守・点検・整備

### 8-8 バッテリーの充電方法 (図44)

**注意** 長時間 (1シーズン) 使用しないでおくと放電し、モーターが回転しない事があります。この場合もご使用前に充電してください。

**注意** バッテリーの充電中にスタートボタンを押さないでください。充電器を損傷します。必ず充電器をコンセントから抜いて押してください。又、充電中はストップスイッチをOFFの位置にしておくこと。

**注意** バッテリー又は充電回路をショートさせないでください。特にスタートボタン下の充電用コンセントにドライバー等を差し込んでショートさせると、本機の異常発熱或いは焼損の原因となることがあります。

①充電器のコネクターをスタータースwitchの充電用コンセントに差し込みます。

**注意** コネクターの脱着時は、コネクターのフックを指でつまんで行ってください。

②充電器を家庭用 (AC100V) コンセントに接続します。

③標準充電時間は15時間です。  
24時間以上は充電しないでください。

**注意** この製品に使われている充電用バッテリー (電池) はリサイクル可能品です。電池寿命が来ましたら地域の規則に従って処分するか、最寄りの販売店にご相談ください。日常生活雑廃ごみに混入して廃棄することは禁じられております。

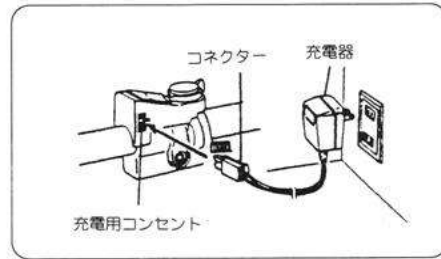


図44

## 8-9 バッテリーの外し方

①フレキシブライナーをエンジンから外し、スロトルワイヤー(1)、コネクター(2)の接続を外しておきます。(図45)

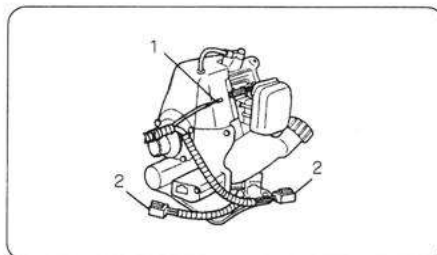


図45

②エンジンを半回転し電池ケース(3)を留めているネジ2本(2)を外します。それから電池ケース(3)を引き出します。長いドライバーを使用するときはタンクキャップ(4)を外し出来るだけドライバーを垂直に立てて回してください。(図46)

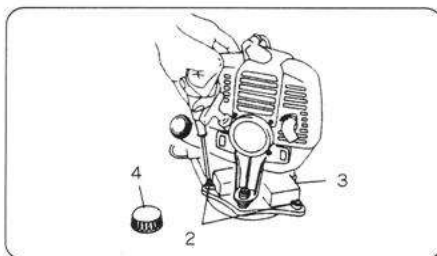


図46

③電池ケース(3)を外したら、ケースの底から緩衝ゴム(4)を引き出します。バッテリー(5)を取り出し、コネクター(6)を外します。(図47)

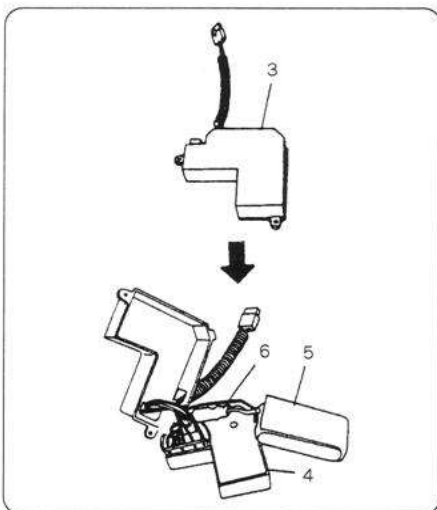


図47

## 8 保守・点検・整備

### PK-35

#### 8-1 気化器

- ①気化器の調整は、工場出荷時に済んでおりますので、なるべくさわらないでください。
- ②アイドル回転が高すぎる時（刈刃が回っている時）または低すぎる時（エンジンが停止する時）は、アイドル調整ネジで調整してください。（右回しでアイドル回転が高くなり、左回しで低くなります）（図48）

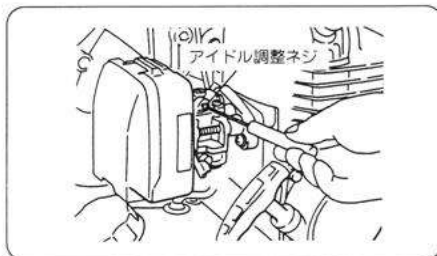


図48

#### 8-2 エアークリーナー（図49）

- ①クリーナーズポンジが汚れ、目詰まり状態になると出力低下や始動困難になります。クリーナーズポンジは時々掃除し、汚れを落として目詰まりを防いでください。
- ②クリーナーズポンジを掃除する時は、ガソリンで洗ってかたくしほり乾燥させてから取り付けてください。

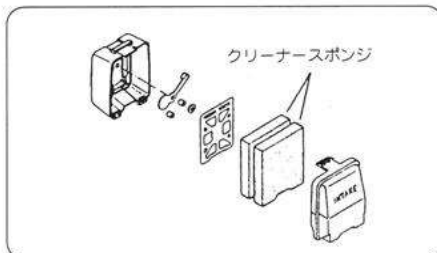


図49

#### 8-3 燃料フィルター（図50）

- ①燃料フィルターが詰まるとガソリンが上がらずエンジンの回転不調の原因となります。時々点検してください。
- ②汚れている時は、針金などで燃料給油口から引き出してガソリンで良く洗ってください。（汚れのひどい時は交換してください）

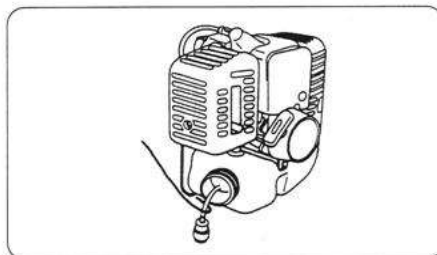


図50

#### 8-4 マフラー（図51）

- ①長時間運転しますと、シリンダーの排気孔、マフラーの入り口内部、出口にカーボンが付着し出力低下の原因になります。時々掃除してください。但し、シリンダー排気孔を掃除する時は、ピストンやシリンダーに傷を付けないように、又クランクケース内にカーボンが入らないように特に注意してください。

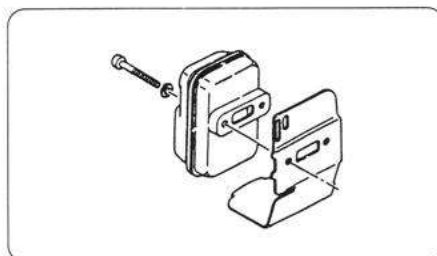


図51

## 9 保管の方法

- ①各部を十分に清掃し金属部には発錆防止のため2サイクル専用オイルを薄く塗ってください。
- ②長期間（3週間以上）保管するときは、燃料タンクから燃料を抜き取ってから自然に停止するまで空運転し、気化器の中の燃料を完全になくしておきます。
- ③点火プラグを外し、プラグの穴から少量の2サイクル専用オイルをシリンダーに流し込み、スタートボタンを1～2秒押しオイルが行き渡るようにしてください。  
点火プラグを元通りに取り付けてください。
- ④損傷箇所がある場合は必ず修理してから格納してください。
- ⑤ホコリ、湿気のない乾燥した、又温度が50℃以上にならない場所に保管してください。
- ⑥子供の手の届かない安全な場所に格納してください。
- ⑦燃料は屋内の火気の心配のない、冷たい乾いたところに、安全な容器に入れて保管してください。  
古くなった燃料は故障の原因となりますので使用しないでください。

# 10 故障診断



★修理に使用する部品は必ず指定の純正部品を使ってください。

## 10-1 エンジンがかからない時

### ①燃料関係

- 燃料タンクに燃料がない、又は少ない ————— 正しい混合比 (25:1) の燃料を入れる
- 燃料を吸い込みすぎ点火プラグが濡れている —————
- ①点火プラグを外す
  - ②スタートボタンを1~2秒押しして余剰燃料を出す  
又はリコイルスタータを2~3回引く
  - ③点火プラグを装着する
- 燃料パイプが折れ曲がっていたり、外れたりしている ————— 燃料が流れやすいようにする
- 気化器の不調 ————— 「気化器」P22 (PK-25) ,26 (PK-35)  
参照又は販売店に相談する

### ②電気系統

- ストップスイッチが停止 (OFF) になっている ————— 運転 (ON) にする (PK-25)
- 点火プラグに火花が飛ばない ————— 「点火火花の点検」P22参照
- ストップスイッチのリード線がショートしている ————— 修理又は交換する
- 点火プラグが汚損している ————— 交換又は掃除する
- 点火プラグのギャップが広い ————— 0.6mmに修正する
- 点火コイルの高圧コードと点火プラグの接続が悪い ————— 接続を直す
- 点火コイルの不良 ————— 交換する
- モーターが回らない ————— 充電する (PK-25)  
「バッテリーの充電方法」P24参照

## 10-2 エンジンはスタートするがすぐ停止する。又は停止しそうになる。

### ①燃料関係

- |               |  |
|---------------|--|
| 燃料タンク内に燃料が少ない | 正しい混合比 (25:1) の燃料を入れる                    |
| 燃料系統に空気が混入する  | 燃料パイプや継手にヒビが入っていないか、又接続はしっかりしているかを調べる    |
| 化器の不調         | 「化器」P22 (PK-25) ,26 (PK-35) 参照又は販売店に相談する |

### ②電気系統 (点火ミスをする)

- |          |      |
|----------|------|
| 点火プラグの不良 | 交換する |
| 点火コイルの不良 | 交換する |

### ③その他

- |                           |                |                       |
|---------------------------|----------------|-----------------------|
| エンジンのオーバーヒート              | 燃料混合比不良        | 正しい混合比 (25:1) の燃料を入れる |
|                           | 点火プラグの番手違い     | 指定品に交換する「仕様」P32参照     |
|                           | シリンダー回りのゴミつまり  | 掃除する                  |
|                           | 冷却風吸い込み口のゴミつまり | 掃除する                  |
| エアークリーナーの汚れ               | 掃除する           |                       |
| カーボンつまり (マフラー、シリンダー排気孔)   | 掃除する           |                       |
| 圧縮不足 (ピストン、ピストンリング、シリンダー) | 交換する           |                       |



## 10 故障診断

### 10-3 異常振動が出た場合

- ① 刈刃の取付け不良 ————— 「刈刃の取付け」P11～12参照
- ② 締め付け部のゆるみ ————— チェックして増し締めする
- ③ 刈刃損傷 ————— 交換する
- ④ ギヤケースに雑草が巻き付いている ————— 取り除く
- ⑤ 点火プラグの劣化、損傷による ————— 交換する

**注意** 「故障診断」で対応出来ない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

## 11 工具及び付属品

部 品 番 号	部 品 名	個 数
111 1530 001	コウグブクロ	1
M40 4412 001	ボックスレンチ 17	1
9TL 1001 300	スパナ 10×13	1
9TL 0801 000	スパナ 8×10	1
G86 1450 000	トリアツカイセツメイショ	1
813 20000 20	4ロッククボウスパナ	1
829 20000 80	13×19 コンビボックス プラス	1
663 37652 90	ジュウデンキアッシ 100V 4セル	1
541 37590 20	ホゴメガネ	1

## 12 主要諸元

本 機	名称・形式	PK-25	PK-35	
	寸 法	全 長 mm	1400	1400
		全 幅 mm	650	650
		全 高 mm	820	820
	乾 燥 重 量 kg	26	27	
	作 業 幅 mm	600	600	
	走 行	手押式	手押式	
エ ン ジ ン	名 称	空冷2サイクルエンジン	空冷2サイクルエンジン	
	型 式	AS-25MS・TM-25MF	TC-35MS・TC-35MF	
	排 気 量 CC	24	34	
	燃 料 タ ン ク ℓ	0.5	1.0	
	キャブレタ	ダイヤフラム型(プライミングポンプ付)	ダイヤフラム型	
	始 動 方 式	セルスタート方式(リコイルスタータ併用)	リコイルスタータ方式	
	点 火 プ ラ グ	NGK BM7A	NGK BM7A	
	使 用 燃 料	ガンリン：2サイクル専用オイル(25:1)		